

広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業

〈圏域内の市町が抱える地域課題や大学・高校等に期待する取組〉

| 区分 | テーマ | 地域課題の概要 |
|-------------|------------------------|---|
| ①生活交通の維持・確保 | 地方ローカル線の利用促進及び沿線地域の活性化 | ・地方ローカル線では利用者数が減少しており、地方ローカル線及び沿線地域の衰退が懸念されている。 |

| 市町名 | 大学・高校等に期待する取組 |
|-------|--|
| 呉市 | JR呉線を含めた地方ローカル線が将来的に維持・存続していくための広域的な沿線地域の活性化と、日常的な利用促進を図る方策を検討していただきたい。 |
| 竹原市 | JR呉線の利用者が減少傾向にあり、駅周辺の衰退が懸念されている。JR呉線の利用促進及び地域活性化につながる取組を検討していただきたい。 |
| 三次市 | J R芸備線・福塩線の利用者が減少傾向にあり、利用促進や沿線地域の活性化や魅力発信につながる取組を検討していただきたい。 |
| 安芸太田町 | 町民の人口が減少していく中で、公共交通利用者数も減少している。町民だけの利用者数増加には限りがあるため、町外の方の利用促進となる取組を検討していただきたい。 |
| 安芸高田市 | 芸備線は、近年利用が低迷している状況であり、沿線市町で利用促進等の取組が実施されているが、根本的な解決には至っていない状態である。 芸備線の現状及び課題を整理し、沿線地域におけるコミュニティの拡大・創出に向けた取組を検討していただきたい。 |
| 坂町 | 本町はJR呉線の沿線にあり、町内には3つの駅を有している。JRは町民にとって主要な移動手段となっており、利用圏域内に高校や大学、事業所等が立地している駅では乗降者数も多く、停車本数が比較的充実している一方、人口が減少し、病院や小売業者、金融機関等の生活基盤施設が撤退している地域にある駅では、停車本数が非常に少なくなっている。JR沿線の地域コミュニティの活性化を図る方策を検討していただきたい。 |
| 大崎上島町 | フェリー、高速船及びバスの利用者が減少傾向にあり、運賃収入が減ることによる公共交通機関の存続が懸念されている。利用促進を図る方策について検討していただきたい。 |
| 世羅町 | 町外を結ぶ公共交通については、主に通学での利用が多く、ダイヤ自体も通学に対応したダイヤが多く、一般利用が難しい状況となっている。 現状のダイヤを活用して、町外からの観光客を取り込み公共交通の利用促進を図るための取組を検討していただきたい。 |
| 岩国市 | JR岩徳線及びローカル鉄道の錦川清流線の利用者が減少傾向にある。 特に錦川清流線については、近年赤字額が拡大していることから、現在、市として今後の在り方について検討を行っている。 地域住民の日常生活や観光・交流による地域活性化に欠くことのできない鉄路について、将来の日本を担う学生に、若者の目線で検討していただきたい。 |
| 田布施町 | 利用者の少ない沿線の駅及び駅周辺施設などを活用した地域のにぎわいづくり創出の取組や、利用者の増加への取組を検討していただきたい。 |
| 浜田市 | JRの利用促進や沿線地域の活性化や魅力発信につながる取組を検討していただきたい。 |
| 出雲市 | J R山陰本線の利用者は減少傾向にあり、駅周辺の衰退が懸念されている。 島根県を事務局とする沿線市町と商工会議所等で組織する協議会で補助制度を創設し、利用促進を図っているが、成果は上がっていない。J Rの利用促進につながる取組を検討していただきたい。 また、山陰地方唯一の私鉄となる一畑電車については、島根県と沿線市である松江市、出雲市で組織する協議会で、上下分離方式による多額の支援を行っている。 出雲大社行き路線が運行していることから、観光客の利用も年々増えているが、更なる利用を進めるための取組について検討していただきたい。 |
| 邑南町 | 旧三江線沿線地域である羽須美地域では町内の他地域と比較して人口減少が著しい。持続可能な交通手段の確保や、地域コミュニティの確保が課題である。 はすみデマンド（登録ドライバーが所有する車を使って地域住民を有料で送迎するサービス）をはじめとした地域の交通課題の解消や、地域課題全体に対して学生が研究テーマとして取り組み、課題解消に向かうことを期待する。 |